

VIII. 領域別看護学実習

基礎看護学

基礎看護学実習

基礎看護学実習 1 単位 40 時間 【1 年次全期】

実習単位と時期

実習名	単位数（時間）		実習時期
基礎看護学実習（前半）	1 単位（40 時間）	臨地実習 6 時間	1 年次前期
基礎看護学実習（後半）		臨地実習 30 時間 学内実習 4 時間	1 年次後期

1. 基礎看護学実習の目的

看護の対象者を理解し、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を学び、看護職者としての姿勢を培う

2. 基礎看護学実習（前半）

1) 実習目的

臨床講義・病院見学を通して、看護活動の実際を知ることにより看護師を目指すものとして目的を明確にする

2) 実習目標

- (1) 自己の実習目標に基づいて、看護の活動を見学することができる
- (2) 臨床講義・病院見学を通して、看護の役割と機能について考えることができる
- (3) 看護師を目指すものとして、目的・目標を明確にすることができる

3) 評価の観点

目標	観点		
	知識・技能	思考・表現・判断	主体的に学習に取り組む態度
1) 自己の実習目標に基づいて、看護の活動を見学することができる	○		○
2) 臨床講義・病院見学を通して、看護の役割と機能について考えることができる	○	○	
3) 看護師を目指すものとして、目的・目標を明確にすることができる			○

4) 実習目標・学習項目・学習方法

実習目標	学習項目	学習方法
1) 自己の実習目標に基づいて、看護の活動を見学することができる	- 看護の本質、看護の対象、看護における倫理 - 環境（病院・病棟・療養環境） - 看護における技術（コミュニケーション、観察技術、感染防止対策、安全管理、日常生活援助技術）	基礎－Ⅰ前半 シート ・実習目標 実習前に実習目的・実習目標を理解し、自己の実習目標を設定する ・実習目標に基づいて観察した看護活動の実際と学び ・臨床講義・病院見学を通して考えた看護の役割と機能 臨床講義、病院見学、看護活動について体験した事実を具体的に記載し、自己の学びや考えを述べる。また、看護の役割と機能について考察する 事実と本質をつなげるときには、文献を活用するとよい ・看護師を目指すものとして、自己の目的・目標を明確にする 自身の行動を客観的に振り返り、看護師を目指すものとして目的・目標を具体的に見出す
2) 臨床講義・病院見学を通して、看護の役割と機能について考えることができる	- 病院の役割と機能 - 保健・医療・福祉の連携 - 実習病院の理念、看護部の理念 - 看護の役割と機能	
3) 看護師を目指すものとして、目的・目標を明確にすることができる	- 看護職の倫理綱領 - 個人情報保護の保護、継続的な学習 - 心身の健康管理 - 自己省察	

5) 実習展開

(1) 臨地実習 臨地実習 6 時間

実習日	実習内容	カンファレンス	学習課題
実習前	自己の実習目標の設定 事前学習（自己の実習目標の達成に向けて、学習項目について調べ学習をする）		基礎－Ⅰ前半シート ・実習目標の設定 事前学習 A4 1 枚
1 日目 6 時間	実習目標の確認 挨拶（看護部） 1) 病院・病棟オリエンテーション 看護活動の見学 2) 臨床講義 病院の概要と設立趣旨・理念 外来・入院患者の特徴、看護部の理念等	「本日体験したこと・学んだこと」	基礎－Ⅰ前半シート

3. 基礎看護学実習（後半）

1) 実習目的

日常生活の援助を通して、患者と相互関係を築き患者理解を深め、看護職者としての姿勢を培う

2) 実習目標

- (1) 入院している患者を理解できる
- (2) 入院している患者の環境調整ができる
- (3) 日常生活の援助を通して、患者にとっての援助の意味を考察する
- (4) 看護職者と行動を共にし、チーム医療における看護師の役割を理解する

発展目標：診断治療に伴う技術の場面を見学する

3) 評価の観点

目標	観点		
	知識・技能	思考・表現・判断	主体的に学習に取り組む態度
1) 入院している患者を理解できる		○	○
2) 入院している患者の環境調整ができる	○	○	
3) 日常生活の援助を通して、患者にとっての援助の意味を考察する	○	○	
4) 看護職者と行動を共にし、チーム医療における看護師の役割を理解する		○	○
発展目標 診断治療に伴う技術の場面を見学する			○

4) 実習目標・学習項目・学習方法

実習目標	学習項目	学習方法
1) 入院している患者を理解できる	(1) 患者 - 看護師関係を進展させることができる ・看護の対象 ・人間関係論 ・共通基本技術（コミュニケーション、プロセスレコード） (2) 患者との関わりや観察技術を通して、現在の患者の身体的な状態がわかる ・人体の構造と機能 ・疾病の成り立ちと回復の促進 ・疾病理解の看護学的視点 ・健康回復支援総論 (3) 患者との関わりを通して現在の患者の生活上の変化がわかる ・入院生活の心身・社会生活への影響（心理学、人間と社会、地域・在宅看護概論Ⅰ） (4) 患者に応じた観察技術を用いて、患者の身体状態が観察できる ・共通基本技術（観察技術、バイタルサイン）	プロセスレコード ・患者に関心を寄せ尊重した態度で接する ・かかわり行動（視線の合わせ方、ボディールanguage、声の質）、質問（開かれた質問、閉ざされた質問）、励まし（うなづき、間、相槌）、要約、言い換え、感情の反映の技法を用いる ・プロセスレコードを記載し、自己のコミュニケーション技法を客観的に振り返り、自己省察する 患者理解シート ・患者の身体的な状態について、病因、病理学的変化、人体の構造・機能の変化について科学的根拠を基に考える ・患者に行われている治療と関連させる ・患者の生活上の変化に影響している要素を身体的、精神的、社会的、霊的側面を関連させながら捉える（関連図の記載） ・患者の生活上の変化について関連させたことを成文化する ・守秘義務を遵守し、個人情報の保護をする 体温表とフローシート ・バイタルサインを正確に測定する ・患者に応じたフィジカルイグザミネーション（視診・触診・聴診等）を実施する ・観察結果の事実を系統的に述べ、アセスメントする（正確なフローシートの記載） ・アセスメントしたことをケアに活かす
2) 入院している患者の環境調整ができる	(1) 患者の病床環境を安全・安楽の視点で整えることができる ・療養生活の環境、病室・病床環境のアセスメント ・生活援助技術（ベッド周囲と病床の環境調整、ベッドメイキング、リネン交換） ・看護における安全・安楽 ・標準予防策（スタンダードプリコーション）、感染経路別予防策	体験シート ・患者の療養生活と環境、病室・病床環境をアセスメントする ・患者のベッド周囲と病床の環境を安全・安楽の視点で整える ・病床環境調整時、標準予防策（スタンダードプリコーション）、感染経路別予防策を用いる ・体験シート、援助項目【環境調整】を必ず1回は記載し、患者の病床環境をアセスメントする。また、自己の環境調整技術について振り返り、課題を見出す

3) 日常生活の援助を通して、患者にとっての援助の意味を考察する	(1) 患者に実施されている生活援助を原理・原則をふまえて実施できる ・日常生活援助の目的と目標（期待する成果）、援助計画（留意点） ・生活援助技術（活動・休息、食・排泄、清潔・衣生活） ・看護における安全・安楽・自立／自律（患者の状況に応じた看護技術の実践） ・患者の反応（S・O データ）と評価 (2) 患者にとっての援助の意味を考察する ・科学的根拠に基づいた患者にとっての日常生活援助の意味	体験シート ・日常生活援助の目的と目標（期待する成果）、援助計画（留意点）は実施前に記載しておく ・看護師とともに患者に実施されている援助を原理・原則をふまえて実施する ・実施前・実施中・実施後の患者の反応を捉え、援助の目標（期待する成果）に向けて実施した結果を評価する ・日常生活援助を実施した学び、自己の課題を見出す 実習のまとめ ・日常生活の援助を通して、患者にとっての援助の意味を考察する 実施した援助を振り返り、患者にとっての援助の意味を考察し、日常生活援助の意義を自分の言葉で述べる（考察については、文献を活用すること）
4) 看護職者と行動を共にし、チーム医療における看護師の役割を理解する	(1) 看護職者と行動を共にし、チーム医療における看護師の役割を理解できる ・チーム医療（多種多様な医療専門職）と看護師の役割 ・看護職者の倫理綱領 ・患者に対する看護活動の実際 ・多職種との協働・連携	実習のまとめ ・チーム医療における看護師の役割 担当患者を取り巻く医療チームおよび担当患者に対する看護活動の実際を捉え、医療チームにおける看護師の役割を自分の言葉で述べる。また、チーム医療における看護師の役割を果たすために必要な要素を考える
発展目標 診断治療に伴う技術の場面を見学する	・呼吸循環を整える技術（酸素吸引療法・吸引など） ・褥瘡管理技術 ・与薬の技術 ・救命救急処置技術 ・症状・生体機能管理技術（静脈血採血、簡易血糖測定など）	診断治療に伴う技術の場面の見学 ・実習目標 1) ～ 4) が概ね実践できている学生は、担当教員・実習指導者と相談し、診断治療に伴う技術の場面を見学する ・見学した場合は、必要に応じて見学内容と学びを記載する（用紙指定なし）

5) 実習展開

(1) 実習展開 臨地実習 30 時間 学内実習 4 時間

実習日	実習内容	カンファレンス	学習課題
実習前	実習計画表		実習計画表 翌日の実習目標・予定
1 日目 8 時間	臨地オリエンテーション 患者紹介、患者とコミュニケーション 患者理解を始める	テーマは教員と協議の上決定する	実習計画表 目標の振り返り、実施 翌日の実習目標・予定 体験シート 翌日の援助項目、援助の目的・目標、援助計画 プロセスレコード 患者理解シート
2 日目 8 時間	日常生活の援助に参加し、患者を理解する ・環境調整（実施：到達レベルⅡ） ・バイタルサイン測定（実施：到達レベルⅡ） ・患者に応じた生活援助（見学・一部実施）	テーマは教員と協議の上決定する	実習計画表 体験シート ・援助の結果、評価、本日の学び（価値）と課題 ・翌日の援助項目、援助の目的・目標、援助計画 体温表とフローシート プロセスレコード（2 日目には必ず記載すること） 患者理解シート
3 日目 8 時間	日常生活の援助に参加し、患者を理解する ・環境調整 ・バイタルサイン測定 ・患者に応じた生活援助（一部実施・実施）	テーマは教員と協議の上決定する	実習計画表 体験シート 体温表とフローシート 患者理解シート（3 日目に完成させること） 実習のまとめ
4 日目 6 時間	日常生活の援助に参加し、患者を理解する ・環境調整、バイタルサイン測定 ・患者に応じた日常生活援助（実施：到達レベルⅡ） 午後：最終カンファレンス	「患者との関わりを通して理解した患者像および実習の学び」 資料：患者理解シート	実習計画表 体験シート 体温表とフローシート 実習のまとめ
5 日目 4 時間	学内実習 実習総括会に向けての準備 実習総括会	基礎看護学実習（後半）の学びと課題の明確化	

*技術における到達レベルは、臨地における技術項目一覧参照

6) 学内実習展開について

目的：基礎看護学実習（後半）の学びを共有し、これからの自分たちの課題を明確にする

時期：基礎看護学実習（後半）臨地実習終了後に設定する

日程	時間	内容	技術内容
5 日目	4 時間	・実習総括会に向けての準備 ・実習総括会（グループ発表、全体討議、講評） 総括会テーマ 「基礎看護学実習（後半）の学びと課題の明確化」	プレゼンテーション ICT の活用

7) 実習展開上の留意点

1) 事前学習について

内容	提出期限
1) 実習目的・実習目標の達成に向けて、自分自身の学習状況を把握・調整し、必要な事項について調べ学習等に取り組む ①取り組み状況（日時、内容、方法等）を記載する（用紙：基礎看護学実習（後半）課題ポートフォリオ） ②成果物は実習ファイルに挟む	・①②は臨地実習前、実習中に日々実施し、実習ファイルに挟んでおく ・①②は実習記録最終提出日に実習ファイルに挟んで提出する

2) 実習記録について

①患者理解シート：臨地実習 4 日目「患者理解シート」を用いてカンファレンスを実施する

「患者理解シート」は臨地実習 4 日目より院内保管とする

②体験シート：臨地実習 2～4 日目の援助項目について記載する

援助項目の内容は「環境調整」「日常生活援助（清拭、食事介助、排泄介助など）」とし、
「環境調整」は必ず実習中 1 回は記載すること

③体温表とフローシート：臨地実習 2～4 日目のバイタルサイン測定の結果を記載し、アセスメントすること

④プロセスレコード：臨地実習 1～2 日目の中で 1 場面を記載する。ただし、必要に応じて 1 場面以上を記載する場合がある。患者 - 学生の 2 者関係を記載すること

⑤実習のまとめ：臨地実習 4 日目に記載し、実習記録提出日に提出する

記載内容は以下の 4 つとする

- ・実習を通して学んだこと
- ・日常生活の援助を通して、患者にとっての援助の意味を考察する
- ・チーム医療における看護師の役割
- ・今後の課題

⑥基礎看護学実習（後半）課題ポートフォリオ：事前学習の取り組み状況を記載する

その他（以下の2つは評価対象外とする）

- ・安全に関する体験報告書：臨地実習1～4日間の中で、ヒヤリハットした1場面を記載する。ただし、必要に応じて1場面以上を記載する場合がある。
- ・私の技術習得の歩み：臨地実習で体験した技術について、習得状況をチェックする

3) 受け持ち対象について

- ・原則、日常生活援助を必要としている患者を担当する。
- ・コミュニケーションについては必ずしも言語的コミュニケーションが図れる患者でなくてもよい。

基礎看護学実習（前半） ルーブリック

	評価規準	キーワード	評価資料	評価基準（尺度）			
				S	A	B	C
実習 目標 1	視点をもち て看護の活 動を観察で きる	・自己の実習目的・目標 ・実習で体験した事実 ・看護の役割と機能	観察 対話 カンファ レンス 実習記録	1) 自己の実習 目的・目標を基 礎看護学実習 (前半)に基づき 設定している 2) 臨床講義・ 病院見学・看護 活動について実 習で体験した事 実を具体的に <u>かつ全体を網羅し</u> て述べてる 3) 自己の考え (学び)を自己の 実習目標に応じ て具体的に述べ ている 4) 看護の役割 と機能について <u>文献を活用し体</u> <u>験した事実と看</u> <u>護の本質をつな</u> <u>げて考察してい</u> <u>る</u> 1～4) 全て該 当する場合	1) 自己の実習 目的・目標を基 礎看護学実習 (前半)に基づき 設定している 2) 臨床講義・ 病院見学・看護 活動について実 習で体験した事 実を具体的に述 べてる 3) 自己の考え (学び)を自己の 実習目標に応じ て具体的に述べ ている 4) 看護の役割 と機能について <u>文献を活用し考</u> <u>察している</u> 1) かつ2～4) の2つ以上が該 当する場合とす る	1) 自己の実習 目的・目標を基 礎看護学実習 (前半)に基づき 設定している 2) 臨床講義・ 病院見学・看護 活動について、 実習で体験した 事実を述べてい る 3) 自己の考え (学び)を述べて いる 4) 看護の役割 と機能について 考察しているが 抽象的である	1) 自己の実習 目的・目標を設 定しているが、 基礎看護学実習 (前半)の実習目 標と解離してい る 2) 臨床講義・ 病院見学・看護 活動について体 験した事実を述 べている 3) 自己の考え (学び)、看護の 役割と機能につ いて述べていな い
実習 目標 2	臨床講義・ 病院見学を 通して、看 護の役割と 機能につい て考察でき る		対話 カンファ レンス 実習記録				
実習 目標 3	自身の行動 を振り返り、 看護師を目 指すものとし て目的・目 標を見出すこ とができる	・看護職の倫理綱領(個人 情報の保護、継続的 な学習、心身の健康管 理) ・自己省察	対話 カンファ レンス実 習記録		1) 自身の行動 について継続的 な学習、心身の 健康管理)を客 観的に振り返り、 看護師を目指す ものとして目的 ・目標を具体的 に見出すことが できる 2) 取得した個人 情報は自ら適 正に取り扱うこ とができる 1) 2) 全て該 当している場合	1) 自身の行動 について、継続 的な学習、心身 の健康管理につ いて一部を振り 返し、看護師を 目指すものとし て目的・目標を 見出しているが 抽象的である 2) 取得した個人 情報は適正に 取り扱うことが できるが、一部 助言を要す	1) 自身の行動 について、継続 的な学習、心身 の健康管理につ いて一部を振り 返し、看護師を 目指すものとし て目的・目標を 見出しているが 抽象的である 2) 取得した個人 情報は適正に 取り扱うことに 多くの助言を要 する
実習 態度	チームの一 員であることを 自覚し、行 動に対する責 任を持つこと ができる	・看護学生としての接 遇マナー(挨拶、身だ しなみ、言葉遣い、表 情、態度) ・ルール、時間の厳守 ・チーム(実習指導者、 教員、学生)の一員と しての自覚(報告・連 絡・相談・確認)	観察 対話 カンファ レンス		看護学生として の接遇マナーを 身につけている。 また、ルールや 時間を守ってい る。チームの一 員として報告・ 連絡・相談・確 認ができる	看護学生として の接遇マナーや ルール、時間 を守ることにつ いて、助言の もとでできる。 チームの一員 として報告・ 連絡・相談・ 確認について 助言の もとでできる	看護学生として の接遇マナー について助言 をしても改善 がみられない。 また、ルール、 時間が守れ ない。かつ、 チームの一員 として報告・ 連絡・相談・ 確認につ いて助言を してもできない
記録物（評価表含む）の最終提出遅れは減点対象となる（－1点）							

基礎看護学実習（後半） ルーブリック

	評価規準	キーワード	評価資料	評価基準（尺度）			
				S	A	B	C
実習 目標 1	1) 患者・看護師関係を進展させることができる	・患者に関心を寄せる ・コミュニケーション技法の活用 かわり行動（視線の合わせ方 ボディランゲージ、声の質） 質問（開かれた質問、閉ざされた質問）、励まし（うなづき、相槌）、要約、言い換え、感情の反映 ・自己省察	観察 対話 実習記録（プロセスレコード） カンファレンス	1) コミュニケーション技法を意図的に活用し、患者・看護師関係が進展させることができる 2) 患者に関心を寄せ、尊重した態度で接し、自己を客観的に振り返ることができる（自己省察できる） 1) 2) ともに該当する場合	1) コミュニケーション技法を活用し、患者・看護師関係を進展させることができる 2) 患者に関心を寄せ、尊重した態度で接し、自己を振り返ることができる 1) 2) ともに該当する場合	1) コミュニケーション技法を活用しようとしているが、患者・看護師関係を進展させることが難しい 2) 患者に関心を寄せ、尊重した態度で接することが難しいが、自己を振り返ることができる	1) コミュニケーション技法の活用することが難しい 2) 患者に関心を寄せ、尊重した態度で接することが難しく、また、自己の振り返りが難しい
	2) 患者との関わりや観察技術を通して、現在の患者の身体的な状態がわかる	・患者の身体的な状態（症状・徴候） ・病因、病理学的変化 ・人体の構造・機能の変化 ・科学的根拠 ・病期の判断 ・患者に行われている治療	実習記録（患者理解シート） 対話 カンファレンス	患者の身体的な状態について、病因、病理学的変化、人体の構造・機能の変化について科学的根拠を基に正確に捉えている。また、患者に行われている治療について治療目的を正しく捉えている（関連図の正確さ）	患者の身体的な状態について、病因、病理学的変化、人体の構造・機能の変化について科学的根拠を基に捉えている。また、患者に行われている治療について捉えている	患者の身体的な状態について、病因、病理学的変化、人体の構造・機能の変化について、科学的根拠を基に捉えようとしているが一部不足している。	患者の身体的な状態について、病因、病理学的変化、人体の構造・機能の変化について、科学的根拠が不足している。
	3) 患者との関わりを通して、現在の患者の生活上の変化がわかる	・患者の生活上の変化 ・身体的、精神的、社会的、霊的側面	実習記録（患者理解シート） 対話 カンファレンス	患者の生活上の変化に影響している要素を身体的、精神的、社会的、霊的側面から関連させながら捉えている	患者の生活上の変化に影響している要素を身体的、精神的、社会的、霊的側面から捉えている	患者の生活上の変化に影響している要素を身体的、精神的、社会的、霊的側面の一部から捉えようとしている	患者の生活上の変化に影響している要素を捉えることが難しい
	4) 患者に応じた観察技術を用いて、患者の身体状態を観察できる	・バイタルサイン測定 ・フィジカルイグザミネーション ・観察結果のアセスメント	観察 対話 実習記録（体温表とフローシー）	1) 患者の状況に応じてバイタルサイン測定、フィジカルイグザミネーションを正確に実施している 2) 観察結果の事実を系統的に述べ、アセスメントしたことをケアに活かしている 1) 2) ともに該当する場合	1) バイタルサインを正確に測定し、患者に応じたフィジカルイグザミネーションを実施している 2) 観察結果の事実を系統的に述べ、アセスメントしている	1) バイタルサインを正確に測定している 2) 観察結果の事実を述べ、アセスメントしようとしている	1) バイタルサインを正確に測定することが難しい 2) 観察結果の事実を述べているがアセスメントしていない
実習 目標 2	5) 患者の病床環境を安全・安楽の視点で整えることができる	・療養生活の環境、病室・病床環境のアセスメント ・看護における安全・安楽 ・標準予防策（スタンダードプリコーション）、感染経路別予防策	観察 対話 実習記録（患者理解シート、体験シート、まとめ）	1) 患者の療養生活の環境、病室・病床環境をアセスメントし、患者の状況に応じて、安全・安楽の視点で病床環境を整えている 2) 標準予防策（スタンダードプリコーション）理解し、常に環境調整時に実施している 1) 2) ともに該当する場合	1) 患者の療養生活の環境、病室・病床環境をアセスメントし、安全・安楽の視点で病床環境を整えている 2) 標準予防策（スタンダードプリコーション）を理解し、環境調整時に実施している	1) 患者の病床環境を整えているが、患者の病室・病床環境のアセスメントが不十分である 2) 標準予防策（スタンダードプリコーション）の理解が不十分であるが環境調整時に実施している	1) 患者の病床環境を整えていることが難しい 2) 標準予防策（スタンダードプリコーション）を環境調整時に実施していない
実習 目標 3	6) 患者に実施されている生活援助を原理・原則をふまえて実施できる	・援助の目的と目標（期待する成果） ・援助計画（留意点） ・看護技術の実践（原理・原則） ・看護における安全・安楽・自立／自律 ・患者の反応（S・O データ）と評価	観察 対話 実習記録（体験シート）	1) 看護師とともに患者に実施されている援助を原理・原則をふまえて、患者の反応を捉えながら実施している 2) 実施前・実施中・実施後の患者の反応を正確に捉え、援助の目標（期待する成果）に向けて実施した結果を多角的に評価している 1) 2) ともに該当する場合	1) 看護師とともに患者に実施されている援助を原理・原則をふまえて実施している 2) 実施前・実施中・実施後の患者の反応を捉え、援助の目標（期待する成果）に向けて実施した結果を評価している	1) 看護師とともに患者に実施されている援助を原理・原則をふまえて実施しようとしているが難しい 2) 実施時の患者の反応を捉え、援助の目標（期待する成果）に向けて実施した結果を評価しているが不十分である	1) 看護師とともに患者に実施されている援助を原理・原則をふまえて実施しようとしているが難しい 2) 実施時の患者の反応を捉えることが難しく、また、援助の目標（期待する成果）に向けて実施した結果を評価することができない
	7) 患者にとっての援助の意味を考察する	・患者にとっての援助の意味 ・日常生活援助の意義	対話 実習記録（患者理解シート、体験シート、まとめ） カンファレンス	実施した援助を俯瞰し、患者にとっての援助の意味を患者の生活上の変化に関連させながら考察し、日常生活援助の意義を自分の言葉で具体的に述べている	実施した援助を俯瞰し、患者にとっての援助の意味を考察し、日常生活援助の意義を自分の言葉で述べている	患者にとっての援助の意味を考察しようとしている、また、日常生活援助の意義を述べようとしている	患者にとっての援助の意味を考察していない、また、日常生活援助の意義を述べていない
実習 目標 4	8) 看護者と行動を共にし、チーム医療における看護師の役割を理解する	・チーム医療と看護師の役割 ・患者に対する看護活動の実践 ・多職種との協働・連携	対話 カンファレンス 実習記録（まとめ）	1) 担当患者を取り巻く医療チームおよび担当患者の看護活動の実践を捉え、医療チームにおける看護師の役割を自分の言葉で述べている。 2) チーム医療における看護師の役割を果たすために必要な要素を考えている 1) 2) ともに該当する場合	1) 担当患者を取り巻く医療チームおよび担当患者の看護活動の実践を捉え、医療チームにおける看護師の役割を述べている		担当患者を取り巻く医療チームおよび担当患者の看護活動の実践を捉えようとしているが不十分であり、医療チームにおける看護師の役割を述べられていない

基礎看護学実習（前半） 評価表

学籍番号 _____ 氏名 _____

実習施設 _____

実習期間 （臨地） 令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日（ _____ ）

出席時間数 _____ 欠席時間数 _____

総括的評価

学習活動における評価規準項目			自己評価	指導者・教員評価
実習 目標	1	視点をもって看護の活動を観察できる	S ・ A ・ B ・ C	S (4)・A (3)・B (2)・C (1)
	2	臨床講義・病院見学を通して、看護の役割と機能について考察できる		
	3	自身の行動を振り返り、看護師を目指すものとして目的・目標を見出すことができる	A ・ B ・ C	A (3)・B (2)・C (1)
態度	4	チームの一員であることを自覚し、行動に対する責任を持つことができる	A ・ B ・ C	A (3)・B (2)・C (0)
		記録物（評価表含む）の最終提出遅れは減点対象となる（－1点）		
学習活動における評価				点／10点
評価者			担当教員	

* 総合評価は、基礎看護学実習（後半）の評価と合わせて評価する

基礎看護学実習（後半） 評価表

学籍番号 _____ 氏名 _____

実習施設（病棟） _____

実習期間 （臨地） 令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日（ ） ～ _____ 月 _____ 日（ ）
（学内） _____

出席時間数（実時間） _____ 欠席時間数（実時間） _____

総括的評価

*中間評価はなし

学習活動における評価規準項目		自己評価（最終）	指導者・教員評価
実習 目標	1 患者 - 看護師関係を進展させることができる	S ・ A ・ B ・ C	S (10) ・ A (8) ・ B (6) ・ C (2)
	2 患者との関わりや観察技術を通して、現在の患者の身体的な状態がわかる	S ・ A ・ B ・ C	S (10) ・ A (8) ・ B (6) ・ C (2)
	3 患者との関わりを通して、現在の患者の生活上の変化がわかる	S ・ A ・ B ・ C	S (9) ・ A (7) ・ B (6) ・ C (2)
	4 患者に応じた観察技術を用いて、患者の身体状態が観察できる	S ・ A ・ B ・ C	S (10) ・ A (8) ・ B (6) ・ C (2)
	5 患者の病床環境を安全・安楽の視点で整えることができる	S ・ A ・ B ・ C	S (10) ・ A (8) ・ B (6) ・ C (2)
	6 患者に実施されている生活援助を原理・原則をふまえて実施できる	S ・ A ・ B ・ C	S (10) ・ A (8) ・ B (6) ・ C (2)
	7 患者にとっての援助の意味を考察する	S ・ A ・ B ・ C	S (9) ・ A (7) ・ B (6) ・ C (2)
	8 看護者と行動を共にし、チーム医療における看護師の役割を理解する	A ・ B ・ C	A (7) ・ B (6) ・ C (2)
態度	1 互いに自律し、尊重し、支え合いながら、人間関係を構築・発展できる	A ・ B ・ C	A (2) ・ B (1) ・ C (0)
	2 看護師を目指すものとして、心身の健康を自己管理できる	A ・ B ・ C	A (2) ・ B (1) ・ C (0)
	3 看護師としての責務を自覚し、対象の意思決定を支え、倫理的な判断を基に看護を実践できる	A ・ B ・ C	A (2) ・ B (1) ・ C (0)
	4 チームの一員であることを自覚し、行動に対する責任を持つことができる	A ・ B ・ C	A (2) ・ B (1) ・ C (0)
	5 自らの課題を見出し、学び続けることができる	A ・ B ・ C	A (2) ・ B (1) ・ C (0)
課題ポートフォリオ 達成度評価（学生）		点／5点	
学習活動における評価（指導者・教員）			点／85点
*実習成績：秀（とても優れてできる）90点以上、優（優れてできる）89点～80点以上、良（できる）79点～70点以上、可（不十分さを残すができる）69点～60点以上、不可（できない）60点未満			合計点 基礎看護学（前半）実習の評価も加える 点／100点
評価者	実習指導者	担当教員	実習成績

実習計画表

学生氏名

基礎-1 前半シート

氏名

実習目標	
実習目標に基づいて観察した看護活動の実際と学び	
臨床講義・病院見学を通して考えた看護の役割と機能	
看護師を目指すものとして、自己の目的・目標を明確にしよう 今の自分を見つめてみよう（振り返りと課題）	
看護師を目指すものとして目的を定め、具体的な目標を設定しておきましょう 目的： 目標：	

週	目 標	8	9	10	11	12	13	14	15	16
第 () 週	本日の実習目標	予 定								
()	目標の振り返り	実 施								
	本日の実習目標	予 定								
()	目標の振り返り	実 施								
	本日の実習目標	予 定								
()	目標の振り返り	実 施								
	本日の実習目標	予 定								
()	目標の振り返り	実 施								
	本日の実習目標	予 定								
()	目標の振り返り	実 施								

氏名		
援助の目的	援助の目標(期待する成果)	
実施内容		
評価		
援助の結果(S・Oデータで記載)		
今日の学び(価値)と課題		
助言		

[illegible]

基礎5－実習のまとめ	氏名
1. 実習を通して学んだこと	
2. 日常生活の援助を通して、患者にとっての援助の意味	
3. チーム医療における看護師の役割について	
4. 今後の課題	

